

森林・林業の分野で  
地域おこし協力隊制度を活用して  
地域を盛り上げましょう！



林野庁 総務省

「地域おこし協力隊」は人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした制度です。

森林・林業分野でも既に多くの地方公共団体で、地域林業の担い手の育成、地域の森林資源を活用した特産品や森林サービスの開発、地域の伝統技術や文化の継承などに、地域おこし協力隊員が活躍しています。

本パンフレットは、森林・林業の分野での地域おこし協力隊制度の活用がさらに進むよう、協力隊制度の概要や森林・林業分野での活用事例を掲載しました。

皆さんの地域でも、地域を盛り上げるために、森林・林業の分野で地域おこし協力隊制度を御活用願います。

## ～ 森林・林業分野での地域おこし協力隊の活動例～

### 地域林業の担い手として・・・

- ・隊員として森林施業等の技術を習得し、将来的には林業 従事者、森林施業プランナー等として活躍してもらう
- ・森林・林業の専門的知見をもった人材として、退任後に地域林政アドバイザー等として活躍してもらう



### 地域資源の発掘・活用を・・・

- ・地域にない視点を持った外部人材として、地域資源を活用した特産品や森林サービスの開発、販路開拓等を担ってもらう



### 地域の産業・歴史・文化を次世代に・・・

- ・子ども達に緑豊かなふるさとを誇りに思い、木に親しみ、木を通して感性を育む木育の指導者等として活躍してもらう



# 地域おこし協力隊とは？

都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を異動し、地方公共団体が「地域おこし協力隊員」として委嘱し、一定期間、地域に居住して、「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組です。

◆ 地域協力活動の例

- ・ 地域ブランドや地場製品の開発・販売・PR
- ・ 農林水産業への従事
- ・ 住民の生活支援 など

○実施主体 地方公共団体

○活動期間 概ね1年以上3年以下

○国の支援

概ね次に掲げる経費について、特別交付税による措置を講じています。

① 地域おこし協力隊員の活動に要する経費

隊員1人あたり480万円上限

(報償費等280万円[\*]、その他の経費(活動旅費、作業道具等の消耗品費、関係者間の調整などに要する事務的な経費、定住に向けた研修等の経費など)200万円)

\* 隊員のスキルや地理的条件等を考慮した上で最大330万円まで支給可能。  
ただし、一人当たり480万円の上限は変更しない。

② 地域おこし協力隊員等の起業・事業承継に要する経費

任期2年目から任期終了後1年以内に起業する者又は事業を引き継ぐ者1人あたり100万円上限

③ 地域おこし協力隊員の募集等に要する経費

1団体あたり300万円上限

④ 「おためし地域おこし協力隊」に要する経費

1団体あたり100万円上限

⑤ 「地域おこし協力隊インターン」に要する経費

1団体あたり100万円上限(プログラム作成等に要する経費)

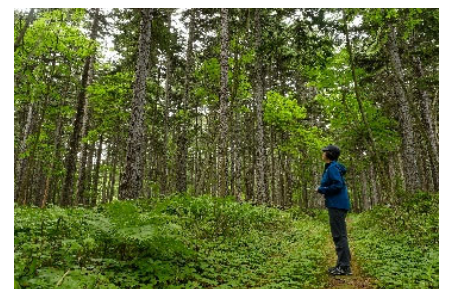
1人・1日あたり1.2万円上限(活動に要する経費)

⑥ 地域おこし協力隊の日々のサポートに要する経費

1団体あたり200万円上限(市町村に限る)

⑦ 任期終了後の隊員が定住するための空き家の改修に要する経費

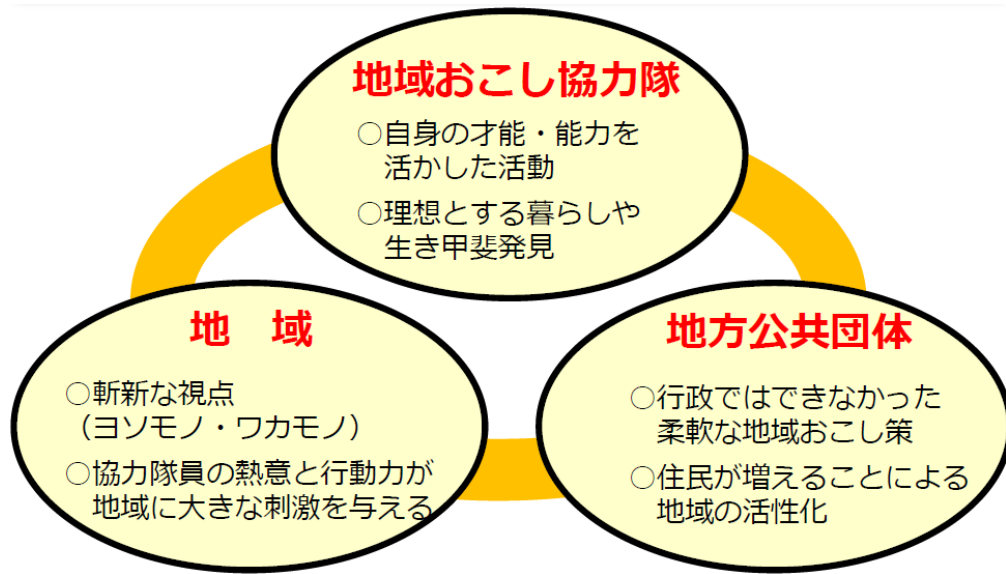
措置率0.5





# ◆ 地域おこし協力隊導入の効果

～地域おこし協力隊・地域・地方公共団体の「三方よし」の取組～



## ◆ 隊員数、取組団体数の推移

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
隊員数(人)	617	978	1,629 (1,511)	2,799 (2,625)	4,090 (3,978)	4,976 (4,830)	5,530 (5,359)	5,503 (5,349)	5,560 (5,464)	6,015 (6,005)	6,447 (6,447)
団体数	207	318	444	673	886	997	1,061	1,071	1,065	1,085	1,116

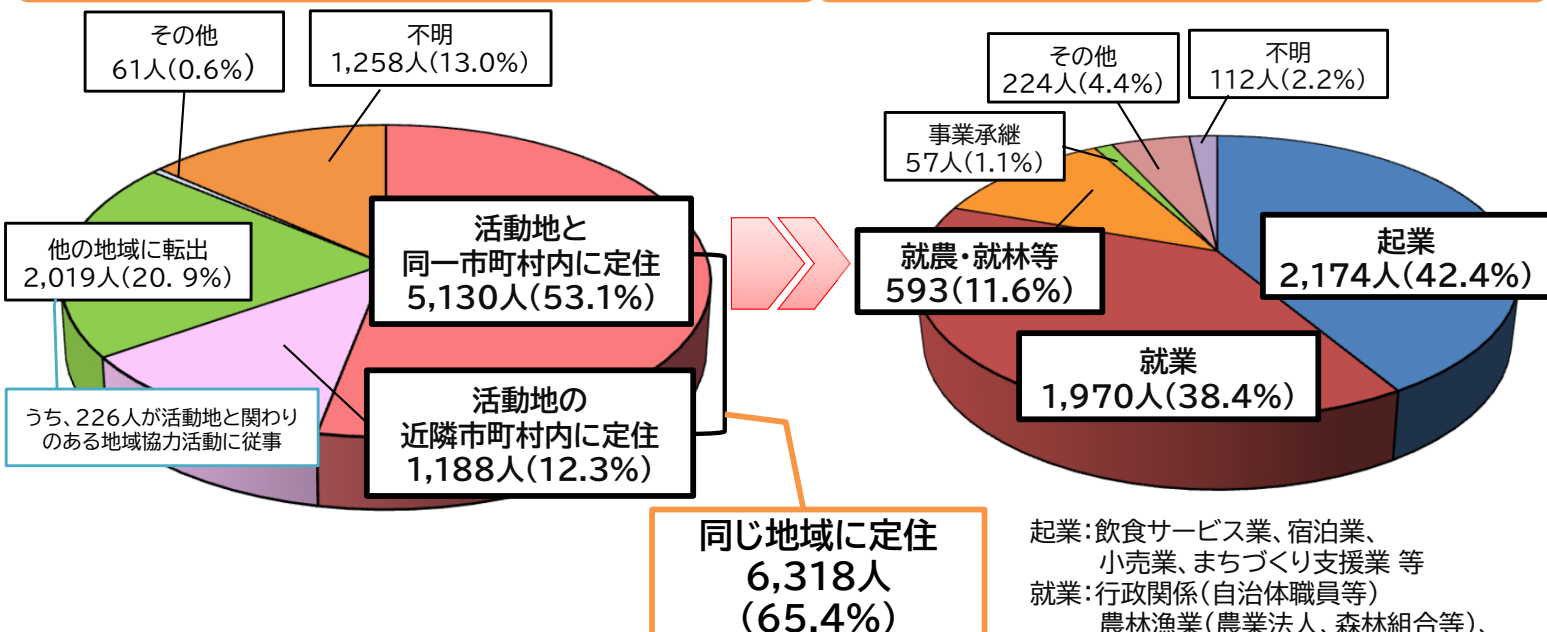
※総務省の「地域おこし協力隊推進要綱」に基づく隊員数。

※平成26年度以降の隊員数は、名称を統一した「田舎で働き隊(農林水産省)」(令和3年度で終了)の隊員数(平成26年度:118人、平成27年度:174人、平成28年度:112人、平成29年度:146人、平成30年度:171人、令和元年度:154人、令和2年度:96人、令和3年度:10人)と合わせたもの。カッコ内は、特別交付税算定ベース。

## ◆ 任期終了後の隊員の動向

任期終了後、およそ65%の隊員が同じ地域に定住

同一市町村内に定住した者(5,130人)の進路



※R4.3末までに任期を終えた隊員に関する調査(総務省 令和4年度地域おこし協力隊の定住状況等調査に係る調査結果より)

## 農山村へ若者を呼び込みたい！

### ▶ 緑のふるさと協力隊 ※特定非営利活動法人 地球緑化センターが実施しています。

農山村に興味をもつ若者が、地域再生に取り組む地方自治体に一年間住民として暮らしながら、地域密着型の活動に携わるプログラムです。協力隊員、受入自治体（市町村役場）、地球緑化センターの三者がそれぞれの役割を担って連携して進めています。

【緑のふるさと協力隊(地球緑化センターホームページ)】  
<http://n-gec.org/>



## 民間企業等のスキルを地域活性化に活かして欲しい！

### ▶ 地域活性化起業人（企業人材派遣制度）

地方公共団体が、三大都市圏に所在する民間企業等の社員を一定期間受け入れ、そのノウハウや知見を活かし、地域独自の魅力や価値の向上等につながる業務に従事してもらうために必要な経費について、特別交付税による措置を講じています。

【地域活性化起業人(総務省ホームページ)】  
[https://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/jichi\\_gyousei/c-gyousei/bunken\\_kaikaku/02gyousei08\\_0310070.html](https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/bunken_kaikaku/02gyousei08_0310070.html)



## 林業の担い手を育成したい！

### ▶ 「緑の雇用」事業と林業労働力の確保・育成について

林野庁では、林業を担う人材の確保・育成に向けて、「緑の雇用」事業を通じた新規就業者の確保・育成や林業への就業前の青年に対する給付金の支給等を行うとともに、現場技能者のキャリア形成を支援し、人材を育成しています。

【「緑の雇用」事業と林業労働力の確保・育成について(林野庁ホームページ)】  
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/routai/koyou/index.html>



## 市町村の森林・林業行政を支援して欲しい！

### ▶ 地域林政アドバイザー制度について

市町村や都道府県が、森林・林業に関して知識や経験を有する者を雇用（又は技術者が所属する法人等に事務を委託）することを通じて、市町村の森林・林業行政の体制支援を図る制度です。この取組を行う市町村や都道府県に対しては、特別交付税により雇用や委託の経費が措置されます。

【地域林政アドバイザー制度について(林野庁ホームページ)】  
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/tiikirinseiadobaiza.html>







## 林業で地域おこし

あつけしちよう

北海道厚岸町では、見過ごしてしまいがちな林業の魅力情報を発信し「木材への親しみ」や「木の文化の理解」を深めるための「木育活動」を進めていただくことを目的として、令和2年度から、林業振興に関する地域おこし協力隊を採用しています。採用された隊員は、厚岸町森林組合に拠点を置き、林業技術の習得やSNS等を活用した町の魅力等の情報発信に取り組んでいます。



北海道厚岸町 地域おこし協力隊 佐倉 咲之介さん(活動期間:令和3年度～)

幼少より自然が好きで、自然に関わる仕事に従事したいという思いがありました。また、生態系の基礎となる森林環境の維持・保全に大きな関心があり、応募を決めました。現在は、林業に関する応用知識と現場技術の習得を目指し、厚岸町森林組合で森林整備に従事するとともに、森林や林業の魅力を町民にわかりやすく魅力発信しています。作業技術はまだまだ独り立ちには程遠いので、これからも引き続き先輩方に指導してもらいながら日々成長していけたらと思います。



## 地元の細かなニーズに応える協力隊員が活躍

おおつちちよう

岩手県大槌町では、林業のNPO法人の体制強化を通じて地域の林業に携わる人口を増やすとともに、町内の細かなニーズに応えることができる人材を増やすことを目的に、地域おこし協力隊を採用しています。令和5年度は、2名の隊員を採用しており、NPO法人において、素材生産事業、木工製品試作、地域向け木工教室等の活動を行っています。



岩手県大槌町 地域おこし協力隊 大邊 慧之さん(活動期間:令和4年度～)

東京で会社員生活を長く続けていましたが、田舎への移住や林業に携わる生活への憧れなどをきっかけに岩手への移住を検討し、大槌町の林業に係る地域おこし協力隊となりました。現在は、協力隊員として、森林での現場作業や、小中学生を対象にした木工教室、薪まつりなどのイベント開催の活動に取り組んでいます。林業の専門的な知識を身につけ、独立してからも、それを生業にしていくことを目標にしています。



## 林業技術の習得と都市部との交流の促進

ねばねむら

長野県根羽村は、村長が森林組合長、村の全世帯が山持ちで森林組合員という全国でも珍しいシステム作りを推進し、村民と行政が一致団結して豊かな森林と暮らしを守っています。基幹産業である林業の振興、持続可能な地域づくりを進めるために、地域おこし協力隊を林業従事者として養成し、村への定住促進を図ることに取り組んでいます。



長野県根羽村 地域おこし協力隊 山本 英介さん(活動期間:令和2年度～)

自伐型林業の講習や勉強会に参加し、林業の厳しい現状も理解した一方で、可能性のある面白い仕事のようにも思い、移住体験ツアーに参加した根羽村の協力隊員となりました。1,2年目は森林整備課職員として、森林組合の森林整備事業に従事し、林業機械の資格取得や林業の基礎知識を学びました。3年目以降は、現場作業を離れ、森林体験学習等の都市部との交流の促進に取り組んでいます。今後は、森林施業プランナー資格を取得し、プランナー業務と並行して都市部との交流活動を継続していく予定です。





## 森林整備と精油事業による林業の六次産業化

群馬県みどり市では、地域で新しい担い手として、地域外から意欲ある方を受け入れ、みどり市の地域力の強化及び地域の活性化を図るため、地域おこし協力隊制度を活用しています。令和5年度は、林業分野、木材産業分野、農業分野、観光分野、施設管理分野、移住定住支援分野の隊員が活動しており、このうち林業分野の隊員は4名、木材産業分野の隊員は1名です。



群馬県みどり市 地域おこし協力隊 伊藤 友樹さん(活動期間:令和4年度~)

以前住んでいたみどり市の森林資源の豊富さと魅力が忘れられず、地域おこし協力隊制度を利用して戻ってきました。

現在は 地元の自伐型林業実践者および林業事業者のもとで技術を学びながら、同じ林業分野の隊員と共に市有林の整備を行っています。また、伐倒木の枝葉やバイオマス材、地元で活用されていない柚子を利用して精油を抽出しています。将来的には、精油事業を中心に林業の六次産業化を目指しています。



## モデルチームの編成による自伐型林業の普及

すくもし

高知県宿毛市は、山の仕事に多くの方が関心を持ち、新規参入につながるよう、関係機関と連携しながら取り組んでおり、とりわけ自伐型林業実践者の育成を進めています。自伐型林業の普及の一環として、平成30年度から地域おこし協力隊の募集を行っており、採用された隊員が自伐型林業の実践を目指し、日々活動しています。



高知県宿毛市 地域おこし協力隊 難波 久美江さん(活動期間:令和4年度~)

令和5年度には4名の隊員が、市内山林を中心に、作業道開設、伐木、集材等の林業に必要な知識・技術の習得に取り組むとともに、市民を対象とした「すくも森林塾」を運営し、新たに林業を始めたい方に対するの普及活動を行っています。

受け持ちの現場や、地元林家や協力隊OBの現場で技術を学んでいます。また、近くの市町村の協力隊と、情報交換をしたり、視察を行ったりしています。休日は、ゴルフやダイビング等、目一杯楽しみながら、定住に向けて活動をしています。



## 広葉樹天然林を活かした地域活性化

いけだちょう

北海道池田町には、120 km<sup>2</sup>の広大な広葉樹天然林がありますが、それらの多くは管理が不十分な状況にあります。担い手の不足、維持管理経費に見合わない価値の低さなどの課題解決のため、製炭技術の後世への伝承や山林所有者等による小規模な自伐型林業の実施など、林業振興及び地域活性化に力を発揮して頂ける地域おこし協力隊を募集しました。



北海道池田町 地域おこし協力隊 福家 菜緒さん(活動期間:令和2年度~)

林業が盛んな街で育ち、いつかは十勝で暮らしたいと思っていました。約10年、自然に携わる仕事をしていて、やはり林業の仕事がしたいと考え模索する中、小規模経営が可能な自伐型林業を推進する池田町での隊員募集を知り、林業推進員に応募しました。

林業推進員は、役場産業振興課林務係に席を置き、自伐型林業の推進等のほか、定住に向けた活動も行います。

任期中は伐木等の技術研修、関連する資格取得、活動山林の取得を目指した情報収集、また地域の小学校を対象とした森林環境教育の実践等を行いました。退任後は引き続き同町にて、森林環境教育や木育の活動及び森林空間活用を主とした事業を立ち上げます。







## 「森林サービス産業」の創出に向けた取組

すぎかし

長野県須坂市では、隊員自身がやりたいことに自由に挑戦出来るよう、フリーミッション制で地域おこし協力隊を募集しています。また、協力隊OBと現役隊員で構成する「地域おこし協議会」を設立し、着任した隊員が抱える課題を解消し、「相談できる仲間がいて」「素早く人脈を築き」「起業まで活動が繋がり」「定住できる」ように取り組んでいます。



長野県須坂市 地域おこし協力隊 野澤 健太さん(活動期間:令和4年度～)

かねてから「自然豊かな長野に移住したい」という思いがあり、地方移住を考えていたところ、市の隊員募集を見つけ、フリーミッション制や協力隊OBによる支援があること、長野市等からのアクセスが良いことなどを理由に応募しました。

現在は、峰の原高原を拠点に「森林サービス産業」の創出に向けて「信州・峰の原高原森林サービス産業推進協議会」を立ち上げ、事務局長として中核を担い、地域と協力して森林・拠点施設の整備のあり方などを検討しています。今後は、峰の原高原を中心に「森林サービス産業」を創出し、担い手づくりに向けて取組を進めます。



## 協力隊とともにつくる「森のようちえん」

とよおかし

兵庫県豊岡市は市域の約8割を森林が占め、森林と人里をつなぐ「里地里山」の保全と活用が重要です。「里地里山」をはじめとする豊かな自然環境の保全に対する意識を醸成するため、地域おこし協力隊が、市内の林業グループや保育従事者等と連携して、自然保育や自然体験イベント等の活動に取り組んでいます。



～自然を大切にする次世代の“育ち”に向けて～



兵庫県豊岡市 地域おこし協力隊 武藤 保貴さん(活動期間:令和3年度～)

豊岡市の思いに共感し、東京都にある森のようちえんでのボランティア経験を活かして、市内での森のようちえんの立ち上げを実現するため、豊岡市へ移住しました。

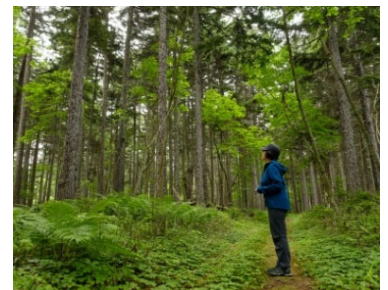
市内の林業グループや保育従事者とともに令和3年6月に「森のようちえん つむぐり」を立ち上げ、親子を対象にした自然体験活動を始めました。令和4年度からは本格的に保育事業を始めました。今後は、自然保育の活動に加えて、様々な世代の方を対象とした自然体験や環境保全の活動を進めていきたいです。



## 北海道木育マスターによる「アカエゾマツの森」の活用

てしかがちょう

北海道弟子屈町は、国立公園内にまたがるロングトレイルコース「摩周・屈斜路トレイル」も整備されており、冬季はスノーシューや歩くスキーで摩周湖や町内の森をめぐるアクティビティも人気です。観光プロモーション活動支援員として地域おこし協力隊を採用しており、現在活動中の隊員は、プロモーションにおいて弟子屈の自然を活用する一環として、北海道木育マスターの資格を取得して活動しています。



北海道弟子屈町 地域おこし協力隊 井出 千種さん(活動期間:令和3年度～)

道内のいろんな山に登り、麓のまちを旅するうちに移住を夢みるようになり、出合ったのが弟子屈町です。町の素晴らしい環境を少しでも多くの人に伝えたくて、志望しました。

弟子屈町・川湯温泉の新たな魅力を創出するため「温泉浴×森林浴」を提唱し、川湯温泉内にある「アカエゾマツの森」に着目し、中学生と町民を対象とした「アカエゾマツの森の散策と森林講座」の開催、観光客へのプロモーションを実施するとともに、「北海道の針葉樹」をコンセプトにしたショップもオープン。今年度は、これらを活かしながら「北海道の森」により親しんでもらえるようなイベントを実施したいと考えています。







## 現役・OBOG協力隊員による 自伐型林業チーム「津和野ヤモリーズ」

つわのちよう

島根県津和野町は、町の森林を活かすため、地域おこし協力隊制度を活用して、自伐型林業チーム「津和野ヤモリーズ」を編成し、壊れない作業道づくりと長伐期択伐施業による持続可能な林業を軸とした津和野式自伐型林業を実践しています。現在5名が隊員として活動しており、10名が卒業生として山の仕事に携わっています。



島根県津和野町 元地域おこし協力隊 有村 望さん(活動期間:<平成28年度~平成30年度>)

持続可能な環境保全型林業である自伐型林業を学ぶため津和野町へ移住しました。任期中は津和野町で管理している山をフィールドとして、他のメンバーと試行錯誤しながら壊れない作業道づくりと搬出間伐の技術を習得しました。

退任後は、個人事業主として、町内の森林整備を行うとともに、自分で伐り出した木材を用いて木工品の作成・販売などに取り組んでいます。



## 森林組合への就業と 「緑の雇用」事業によるさらなるスキルアップ

あさひまち

富山県朝日町は、平成27年度から地域おこし協力隊を採用しており、現在は、農業、漁業、交通、DX分野にて7人の隊員が活動しています。林業における元隊員は、勉強と経験を重ね、今では森林整備の中心的担い手、森林組合において大活躍しています！



富山県朝日町 元地域おこし協力隊 瀬川 大輔さん(活動期間:平成30年度~令和元年度)

私は、趣味が山歩きで、朝日岳に登った時に、北アルプスの美しい自然環境に魅了されました。自然豊かな地域での生活や仕事に憧れを持ち、移住をするなら林業をやりたいと思っていました。ネットで検索していたところ、朝日町での林業という形で協力隊の募集を見つけ、応募しました。任期中は、新川森林組合朝日支所に在籍し、林業技術講習に参加するとともに、保育作業や作業道の整備などに従事し、林業技術を習得しました。

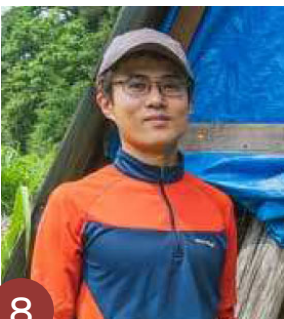
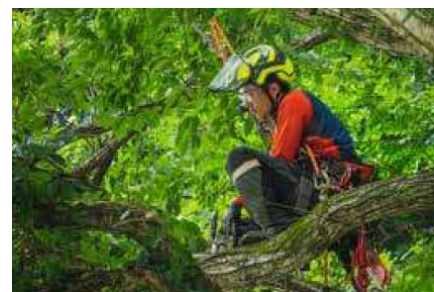
退任後は、同組合に就職し、「緑の雇用」事業を活用しました。引き続き、技術の向上を図りながら、素材生産事業などに従事しています。



## 協力隊OBが設立した有限責任事業組合に参画

ながはまし

滋賀県長浜市は、豊かな森林資源を有することから、林業の他に、森林ガイドや特用林産物の生産販売、狩猟等による複業型での「自伐型林業」の実践に向けて、地域おこし協力隊を募集しています。



滋賀県長浜市 元地域おこし協力隊 子林 葉さん(活動期間:平成30年度~令和3年度)

両親の移住計画をきっかけに、長浜市との縁が生まれ、地域の人たちと交流する中で、移住への思いを強くしました。父方の祖父が木曾の林業家であったことや自然に囲まれて仕事ができることから、元々、林業に関心があり、自伐型林業の地域おこし協力隊に応募しました。任期中は、林業に必要な資格の取得を中心に、森林整備や樹上作業、炭焼き、庭木の剪定等に取り組みました。

退任後は先輩隊員が立ち上げた「有限責任事業組合 木民」に所属し、仕事を続けています。





## 地域の森林資源を活用した木工スタートアップ

～若者の木工起業支援による、森の持続可能な森づくり・まちづくり～

あげまつまち

長野県上松町は、厳しい環境で育つ木曽ひのきが目が詰まり質の高い素材として古くから木材産業を支えてきました。「木工の東大」とも呼ばれる上松技術専門校(職業訓練校)には、毎年全国から木工を志す若者が集まり1年間の訓練期間を上松町で過ごします。地域おこし協力隊制度と連携し、技術専門校の修了生が町内で木工起業をするための体制づくりと、町の豊かな森林・木材資源を活かした製品の特産化・PRに取り組んでいます。



長野県上松町 元地域おこし協力隊 小林 信彦さん(活動期間:平成30年度～令和2年度)

地域おこし協力隊の3年間では、町内の空き工房を改修して技術専門校OBが木工起業をするための拠点を整備したり、商店街の空き店舗を活用し木工製品を展示・PRするギャラリーをリノベーションしました。

卒隊した今でも住民の一人として、「技術専門校に集った若者たちが、木工・林業を生業として自分らしく生きることができるまち」を目指して活動しています。



## 自然豊かな地域で「半農半しいたけ」の複合経営

やまぐちし

山口県山口市は、外部人材を活用し、地域活力の維持・強化を図るため、地域おこし協力隊を採用しており、現在活動中の隊員は、本市の特産品であるりんごの伐採材を活用したワークショップの開催や木のおもちゃによる木育活動、森林が持つセラピー機能を活かしたテントサウナの体験など、本市に豊富にある森林資源を活かした魅力の発信に取り組んでいます。



山口県山口市 元地域おこし協力隊 今仁 有希さん(活動期間:令和元年度～令和4年度)

里山地域で暮らし林業に関する仕事がしたいと考え、山口市徳地に移住しました。任期中は山口県椎茸農業協同組合で流通や販売について学び、生産者の方々と交流を図りながら原木しいたけ生産の現状など情報収集をしました。技術の習得では人工ほだ場を利用した栽培を行い、先輩生産者から原木伐採の手順や機械操作、植菌から収穫まで現場ならではのコツや注意点などを教わることができました。

退任後は就農し「半農半しいたけ」の複合経営で地場製品の生産拡大と新規生産者の獲得に繋げていけるよう活動を続けています。



## 「森林サービス産業」で地域おこし

しろうし

兵庫県宍粟市は、自然豊かな特色を活かし、森林セラピー®・宍粟50名山・マウンテンバイクなどの森林にまつわる様々なアクティビティを展開しています。企業の健康経営をターゲットとして、森林を活用したワークショップやメンタルヘルスなどの取組を進めています。



兵庫県宍粟市 元地域おこし協力隊 加藤 智子さん(活動期間:平成28年～平成30年)

森林×健康づくりという内容に興味を持ち、地域おこし協力隊として3年間森林セラピー®の活動をしてきました。

任期満了後も定住し、森林セラピーガイドの活動を続けています。現在、新たな森林セラピーメニューの企画・開発にも力を入れています。

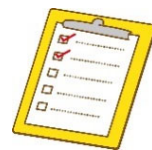


## ① 予算措置

○議会の議決 ※対象経費に留意

## ② 実施要綱等の作成

○地域の受入れニーズの把握  
○実施要綱、設置要綱の作成  
○募集要項(業務概要、待遇等を記載)の作成



## ③ 協力隊員の募集

○団体のサイトや広報誌、一般社団法人  
移住・交流推進機構(JOIN)のサイト(☆)等で公募

☆地域おこし協力隊オフィシャルサイト(移住・交流推進機構(JOIN)ホームページ)

<http://www.iju-join.jp/chiikiokoshi/>

○移住・交流情報ガーデンの活用

[https://www.iju-join.jp/join/iju\\_garden/index.html](https://www.iju-join.jp/join/iju_garden/index.html)

○都市部での説明会の実施



## ④ 選考・面接

○候補者の要望聞き取り ※地域要件に留意

## ⑤ 協力隊員の決定

## ⑥ 事前説明・準備

○隊員への事業の詳細の説明  
○地域での役割、心構えなどを学ぶ研修の実施  
○現地説明会の実施(住民との顔合わせ)  
○隊員の年間活動計画の策定  
○隊員の生活環境のサポート



## ⑦ 委嘱手続き ～活動期間中

○隊員の住民票を異動、委嘱状交付 ⇒ **活動開始!**  
○サポート体制の構築(研修の実施、活動状況の把握等)  
○隊員の活動状況をホームページ、広報誌等でPR  
○地域内外との交流の機会の確保  
○任期終了後の隊員の定住・定着に向けた支援  
○特別交付税の基礎数値報告

## お問い合わせ先

◇ 本パンフレット 及び 林業分野の支援策について

林野庁 森林利用課 山村振興・緑化推進室 TEL:03-3502-0048

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/sanson/kassei/sesaku.html>



◇ 地域おこし協力隊について

総務省 地域力創造グループ 地域自立応援課 TEL:03-5253-5394

[https://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/jichi\\_gyousei/c-gyousei/02gyousei08\\_03000066.html](https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/02gyousei08_03000066.html)

